

第16回レファレンス協同データベース事業フォーラム 開催要項

1 趣旨

レファレンス協同データベース事業（以下、「レファ協」）に関する意見交換・相互交流の場を設け、参加館相互の連携協力を促進するとともに、事業の更なる普及・発展に資するため、標記フォーラムを開催します。今回のフォーラムでは、レファレンス記録を蓄積・共有する意義を確認した上で、業務の中で継続してレファ協へデータを登録・活用するための参考情報を共有し、各館での実践につなげていただくことを目指します。

2 開催日時及び会場

令和2年3月12日（木）13時～17時半

国立国会図書館 関西館（住所：京都府相楽郡精華町精華台8丁目1-3）

3 テーマ

“続けること”が生み出すもの ―レファ協への登録・活用のすすめ―

4 対象

- ・レファ協事業参加館に勤務する方
- ・レファ協事業への参加を検討している図書館に勤務し、かつ自館におけるレファ協の運用について具体的なヒントを得たいと考える方
- ・上記のほか、本フォーラムの趣旨と内容に関心がある方

5 プログラム

司会：関西館図書館協力課

時間	内容	登壇者
13:00～13:05	開会挨拶	関西館長 本吉理彦
13:05～13:10	趣旨説明	図書館協力課課長補佐 富田圭一郎
13:10～13:40	オープニングスピーチ 「レファレンス・サービスによるコミュニティの継承」	青山学院大学コミュニティ人間科学部 教授 小田光宏氏
13:40～14:00	事務局報告「レファ協のここがいいところ & 登録～公開のポイント」	図書館協力課協力ネットワーク係
14:00～14:10	休憩	
14:10～14:35	参加館報告1：安城市図書館情報館	安城市アンフォーレ課 主事 河合潤氏
14:35～15:00	参加館報告2：熊本県立図書館	情報支援課 津留千亜里氏
15:00～15:10	休憩	
15:10～15:35	参加館報告3：関西大学図書館	関西大学総合図書館 レファレンス係 テクニカルサポート (業務委託：株式会社紀伊屋書店 関西ライブラリーサービス部) 徳田恵里氏
15:35～16:00	参加館報告4：宮城県白石高等学校図書館	学校司書 梶本哲弥氏
16:00～16:15	休憩	
16:15～17:25	フリートーク	参加館報告者 安城市アンフォーレ課 司書（主査） 市川祐子氏 進行：図書館協力課
17:25～17:30	閉会挨拶	関西館図書館協力課長 飛田由美

○当日午前（11:00～11:40）に、希望者を対象に関西館見学会を行います（定員40名、先着順）。

○閉会后、希望者を対象に、関西館内で懇親会を開催します（会費制、1時間程度）。

6 プログラムの詳細

●オープニングスピーチ「レファレンス・サービスによるコミュニティの継承」

(企画協力員・青山学院大学コミュニティ人間科学部教授 小田光宏氏)

レファレンス・サービスを組み立てる際には、どのような環境・状況のもとに図書館があり、また、どのような人々に対して活動するかを基本にします。このことは、公共図書館であれば地域社会、大学図書館や学校図書館であれば大学と学校そのもの、専門図書館であれば設置機関・団体、すなわち、「コミュニティ」との関係性を明確にすることにつながります。それぞれの「コミュニティ」には、独自の歴史と文化があり、固有の指向と目標があります。そして、そこにおいては、様々な情報が行き交い、多様な情報が積み重ねられているはずです。レファレンス・サービスもまた、おのおのの「コミュニティ」において、情報の流通と蓄積の仕組みの一つとして位置付けられます。

今回のフォーラムでは、レファレンス・サービスが対象とするものの一つに、「コミュニティ」において生産される情報資源があることを意識し、これに目を向けます。とりわけ、そうした情報資源を、他の場にある「コミュニティ」にどのように継承していくか、また、後の世にある「コミュニティ」にどのように継承していくか、考えてみたいと思います。

●事務局報告「レファ協のここがよいところ & 登録～公開のポイント」(図書館協力課)

- ・レファ協を活用する意義・メリットの紹介
- ・レファ協のデータ作成から公開までの各工程でのポイント紹介
- ・フォーラムにおける参加館報告の趣旨及び概要の説明

●参加館報告(レファ協参加館から4館)

近年継続的にレファ協へデータ登録を行っている4機関の方から、経験談や活用のノウハウをご報告いただきます。

- 安城市図書情報館 河合 潤(かわい じゅん)氏
- 熊本県立図書館 津留 千亜里(つる ちあり)氏
- 関西大学図書館 徳田 恵里(とくだ えり)氏(業務委託:株式会社紀伊國屋書店)
- 宮城県白石高等学校図書館 梶本 哲弥(すぎもと てつや)氏

ご報告のポイント(例)

- ・レファ協登録までの業務体制、フロー
- ・登録業務を制度化した/できた理由、制度化後の状況変化
- ・マニュアル化していること(レファレンス記録・管理方法、登録/一般公開の基準等)
- ・事業への参加及び公開に際し、組織内でどのように理解を得たか
- ・運用が安定化するまでの過程、つまづいたエピソード
- ・登録したデータの活用、登録後の更新作業の状況
- ・レファレンス・サービスの記録やレファ協への登録・公開のモチベーション
- ・継続的なレファレンス・サービスの記録(レファ協への登録)・蓄積による影響・効果

●フリートーク

(参加館報告者4名+安城市図書情報館 市川 祐子(いちかわ ゆうこ)氏/進行:図書館協力課)

各ご報告や、申込みフォームで事前にお寄せいただいたご質問、会場からのご質問などについて、意見交換を行います。

7 報告内容等の利用について

フォーラム終了後、記録を作成し、レファ協事業ホームページに掲載します。